

平成 26 年度

軽米町教育委員会の事務の管理及び
執行の状況の点検及び評価報告書

平成 27 年 11 月

軽米町教育委員会

【様式1】

主 要 事 業 の 概 要

評 価	A	十分達成できた
	B	おおむね達成できた
	C	やや不十分だった
	D	不十分である

【分類】 生涯学習の推進

【分類】 学校教育の充実

【分類】 魅力ある社会教育の推進

【分類】 生涯スポーツの振興

【分類】 多様で個性ある文化の創造

【分類】 教育振興運動の推進

軽米町教育委員会

1 はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正（平成 20 年 4 月 1 日施行）に伴い、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することが規定されました。

軽米町教育委員会は、平成 21 年 2 月 23 日に「軽米町教育委員会の事務の管理及び執行状況についての点検及び評価の実施要領」を施行し、点検及び評価を実施してまいりました。

報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条の規定に基づき、平成 26 年度に執行した事業について、教育委員会で点検・評価を行い、客観性を確保するために、教育に関する学識経験者の意見を付して報告するものです。

《参考》

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（昭和 31 年 6 月 30 日法律第 162 号）
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

平成 26 年度在籍の軽米町教育委員名簿

委員長	戸草内 勝 夫
委員長職務代理者	上 山 誠
委員	関 向 玲 子
委員	江刺家 睦 子
委員（教育長）	菅 波 俊 美

2 教育委員会議の開催状況

教育委員会議については、毎月 1 回「教育委員会定例会」を開催し、また、随時「教育委員会臨時会」を開催し、平成 26 年度は、定例会 12 回、臨時会 1 回あわせて 13 回の会議を開催しました。

3 教育委員会議の審議状況

平成 26 年度は、合計で 18 件の議案について審議しました。

- (1) 教職員及び事務局職員の人事に関する事 2 件
- (2) 付属機関の委員の委嘱 5 件
- (3) 教科書の採択に関する事 2 件
- (4) 教育委員会に関する規則改正に関する事 9 件

また、毎月の定例会議において、事務報告 12 件、並びに、教育委員長及び教育委員長職務代理者、議席の指定などについても会議で取り扱いました。

4 教育委員会議以外の活動状況

- (1) 町議会関係 10 回(定例会 4 回、臨時会 6 回)
本会議及び特別委員会等への出席

- (2) 主な会議、研修会等への出席 (29 件)

- ア 教育長会議等への出席 16 件

- イ 教育委員関係研修会等への出席 13 件

- (3) 学校訪問の実施

- ① 5 月 7 日(水) 小軽米小学校、晴山小学校
- ② 5 月 9 日(金) 軽米小学校、軽米中学校
- ③ 10 月 30 日(木) 小軽米小学校、晴山小学校
- ④ 10 月 31 日(金) 軽米小学校、軽米中学校
- ⑤ 11 月 25 日(火) 軽米幼稚園

5 平成 26 年度事業の点検・評価

(別紙 様式 1 「主要事業の概要」のとおり)

6 教育に関する有識者の意見

(1) 教育委員会事務の点検及び評価の概要

平成 26 年度の軽米町教育委員会の事務事業は、平成 25 年 3 月に策定された「軽米町教育振興基本計画（平成 25～29 年度、5 ヶ年計画）」に基づき、実施されている。

多方面にわたる教育関係施策のうち、重点的に 6 つに分類された事業の概要について説明を受け、それらを点検・評価した。

(2) 主要事業に対する意見

① 生涯学習の推進

町では、昭和 62 年 4 月に生涯学習の町を宣言してから、「協働・参画による生涯学習のまちづくり」を進めてきた。

生涯学習の推進にあたっては、住民が生涯にわたる学習を通じて、生きがいのある充実した生活を送り、一人ひとりが自分に合った手段や方法で学ぶことができる環境づくり、学習機会の提供が大切である。

これまで生涯学習推進本部の設置、地区担当員、推進員の配置など生涯学習推進体制の整備と生涯学習カレンダーの作製等による行事の調整や周知を図ってきたが、今後さらに高齢化、少子化が予想されることから、事業の内容を工夫し、広く町民が参加しやすい環境づくりと推進体制の整備に努めていただきたい。

② 学校教育の充実

学校教育については、統合により平成 26 年 4 月から小学校 3 校中学校 1 校の体制となったが、混乱もなく順調に 1 年が経過したと思われる。

小軽米小学校、軽米中学校においては、生徒個々の様子を十分把握しながら、学区が広範囲となったことから、遠距離通学への配慮や地域に開かれた学校運営などに努めていただきたい。

いじめの問題については、平成 26 年 9 月に「軽米町いじめ防止等のための基本的な方針」を策定、各学校単位においても基本方針が定められており、早期発見と組織的な対応についてマニュアル化が図られている。

平成 26 年度いじめの件数は、27 件報告されており、重大な事案とはならずすべて解決しているが、早期の発見対応等組織的な取り組みを望む。

また、児童生徒が主体的に仲間づくりや明るい学校づくりに取り組むことや校務の効率化により教師が子どもと向き合う時間を作り出すことも大切なことと思われる。

学力の向上については、中高生への英語検定料の助成や外部講師を活用

した学習会の開催、小人数指導のための町費による講師の配置など特色のある取り組みを評価するとともに、今後は学力調査等の結果に着実につながることを期待する。

また、若者の流出を防ぐ意味においても、地域の食材を活用し、生産者を招いての給食交流会の実施や郷土の歴史や文化の学習、地域の産業を理解するキャリア教育など食育、郷土学習を行うことにより、郷土に貢献したいという心を育む取り組みの強化をお願いしたい。

③ 魅力ある社会教育の推進

社会教育については、家庭教育から子ども会、青少年育成、各種講演会、10回に亘って開催される寿大学などそれぞれの年代に応じて学習活動に参加できる取り組みがなされている。

寿大学をはじめ事業内容がマンネリ化しないよう工夫を凝らしながら、多彩な事業展開を期待する。

自治公民館や行政区が主体となって開催される共食事業は、高齢者の生きがい、健康づくりとして活動内容、開催地域ともに広がりを見せており、同じく住民の参画による協働の取り組みとして「夢灯り事業」とともに評価できる活動と思われる。

町立図書館の運営については、図書館情報システムの活用により学校図書も含めた蔵書検索など利便性が図られ、貸出数も増加している。

テーマ図書展、おはなしの会など図書館に親しんでもらう事業や小学生を対象とした子ども司書講座の開設、学校図書整備の支援活動により児童生徒の読書推進活動も行われている。引き続き、住民のニーズに沿って親しみやすい運営を行い、一層の利用拡大に努めていただきたい。

④ 生涯スポーツの振興

生涯スポーツに関する施策については、36回を数える総合体育大会の各種競技や少年野球教室など、各種事業が展開された。

町民体育祭をはじめ総合体育大会は、参加チーム、参加者数の減少が目立つため、住民の意見を聞きながら、開催時期、競技種目など工夫しながら、スポーツ振興に努めていただきたい。

また、健康づくりの観点からラジオ体操など自宅で気軽に運動できる取り組みについても検討願いたい。

施設整備については、ハートフル野球場が国体開催に向けて改修工事が完了したが、体育施設の中核となる町民体育館の老朽化が懸念されることから計画的な整備を期待する。

2016希望郷いわて国体の開催が翌年に迫っていることから、開催

に向けて住民の気運を高めるとともに、万全の準備をお願いする。

⑤ 多様で個性ある文化の創造

芸術文化については、町民文化祭の開催、文化活動サークルの支援など各種事業が行われている。

文化財の発掘調査保護については、開発行為による文化財の遺失を防ぐため、町道用地や太陽光発電施設用地の発掘、千本松遺跡の環状列石遺構などの堅実な調査・発掘及び記録が行われている。

郷土芸能の継承活動については、少子高齢化等により後継者不足が懸念されるが、郷土芸能保存会への支援など地域に根差した文化活動の活性化に努めていただきたい。

また、引き続き優れた芸術文化を鑑賞する機会を創出するなど、今後も住民のニーズをとらえながら、芸術文化の振興を図っていただきたい。

⑥ 教育振興運動の推進

教育振興運動は、「子どもは地域全体ではぐくむ」という考えから、五者（子ども、家庭、学校、地域社会、行政）が連携して子供たちの成長を育む活動を行ってきた。

少子化による活動への影響は、これまでもあったと思われるが、学校統合が行われたことから、実践区の見直しなど地域の実情に合った運動の展開を期待する。

また、情報機器の普及は、子どもの家庭学習や生活習慣への影響が大きいことから、子どもや保護者がゲーム、携帯等への接し方を考える機会となる「ノーメディアの日」等の活動は、これまで取り組まれてきた読書運動などとともに、教育振興運動の一環として家庭や地域社会一体となって取り組みを強化すべき活動と思われる。

以上のとおり、点検し、評価しました。

平成27年11月10日

有識者 下又善作

有識者 清藤敦郎

有識者 大崎孝男

主 要 事 業 の 概 要

評価

- A 十分達成できた C やや不十分だった
B おおむね達成できた D 不十分である

【分類】生涯学習の推進

1 生涯学習推進体制の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 生涯学習推進体制の充実	① 生涯学習推進本部、幹事会の設置 ② 生涯学習推進員の設置 (H25～H26) ③ 生涯学習推進担当員の設置 ・全職員を町内16地区に配置 ④ 生涯学習推進員の研修会 29人参加	A	・生涯学習本部会議を開催し、生涯学習に関する施策を推進するための体制整備をした。 ・生涯学習推進員を設置し、地域での生涯学習推進体制を整備した。また、研修会を開催し、推進員の資質向上に努めた。
2) 生涯学習推進計画に沿った生涯学習事業の推進	① 生涯学習推進「社会教育・生涯スポーツの方針と計画」作成	A	・生涯学習環境の向上のため、社会教育・生涯スポーツの年間事業を決定し、計画的な事業推進を図った。
3) 住みよい地域社会づくり	① 自治公民館連絡協議会活動支援	B	・地域活動の中核となる自治公民館活動に関わる支援により、地域コミュニティの形成を図った。 ・地域リーダー育成が引き続き必要である。

2 協働・参画による生涯学習の推進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 学習情報の提供	① 生涯学習カレンダーの発行 全世帯配布 ② 広報お知らせ版・かるまいテレビ文字放送による学習機会の提供	A	・町民の学習に必要な情報を提供し、町民及び職場、団体等に必要かつ重要な事業として評価を得た。 ・ホームページの充実を図りたい。
2) 学習活動の支援	① 地区学習会講師派遣事業 6地区6件 ② 学社融合・社会人講師派遣事業 (家庭教育学級で対応)	B	・地域における学習活動を推進し、本事業の活用を図る。 ・委託事業の家庭教育事業として開催しており、事業は各学校での事業として定着しているが、今後学校と地域の連携が必要である。
3) 協働・参画のまちづくり	① 第13回軽米町民生涯学習フェスティバル(住民の手による生涯学習フェスティバル実行委員会) 実行委員会開催 2回 20団体出演 展示4部門 494人参加 ② 「新春まちづくり交賀会」 118人参加 ③ 生涯学習講演会 ・「笑涯楽しい絆づくり」 47人参加 ・「閉校後の地域づくり」 45人参加 講師 矢野大和氏 ・平成26年度軽米町教育振興運動集約集会 「共に学び合おう教育」 81人参加 講師 鶴飼 孝 氏	A	・住民の手による生涯学習フェスティバルは13年目を迎え、協働参画意識の高揚の一助となっている。 ・住民との協働による事業の定着化が図られてきている。 ・実行委員、ボランティアの新規入会者が少なく、組織強化が必要である。 ・学校統合の時期に、様々の立場から町民に参加していただき、町外・県外の事例等について研修できた。

【分類】 学校教育の充実

1 就学前教育の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 幼児教育の充実	① 幼稚園教育要領の趣旨に基づき園の実態に応じた教育課程を編成し、保育指導を展開 (計画的野外活動への取り組み) ② 定期的な園内研修の実施とその他の研修への参加	B	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育の基本である「幼児期にふさわしい生活が展開されるように、遊びを通しての総合的な指導を行い一人ひとりの特性に応じた指導」に努めた。 ・幼児の実態に応じ計画的に野外活動を実施した。 ・保育を充実させるため教職員の指導力向上に向けた各種研修を行なった。 ・保育にあたる学級担任は正職員が望ましい。
2) 施設運営の弾力化の推進	① 子育て支援事業（園開放を通して保護者からの子育てについての悩みや相談ごとに対応する。） (支援事業を実施することで幼稚園教育を理解してもらい開かれた幼稚園をめざす) ② 預かり保育と学校給食の導入実施	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援事業を実施したことで、保護者の声(ニーズ)に耳を傾けながら園運営推進に活かした。幼稚園生活教育内容など、保護者の理解を図る場となり安心しての子育て、円滑な幼稚園入園とつながった。 ・預かり保育、学校給食(食育)等の指導内容など検討し、幼稚園教育課程(カリキュラム)にしっかりと位置づけていく必要がある。 ・担当職員の研修確保が必要である。
3) 幼稚園、保育園、小学校との連携	① 幼保小連絡会の開催 ② 幼保交流会の実施 ③ 公開保育、授業の実施と参観	A	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育園、小学校の連絡会や交流会等を開催し、相互の参観による情報交換を行った。 ・幼児と児童の交流、教師同士の交流や合同研修等の確保。 ・保育園の子どもたちとの交流を行い、小学校への円滑な進学を図った。

2 学力の向上

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 「わかる授業」づくりの推進	① 学習指導要領における到達目標を分析し、授業改善を図るための研究と実践を推進 ② 授業改善研修会(数学・小学校外国語活動)の開催	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の趣旨徹底を図りながら、教員の指導力向上を目指した校内研究会を実施した。 ・授業改善研修会に先進的な実践家を招聘し、「わかる授業」についての助言を得ながら、基礎的知識、技能を習得させ、それを活用することによって問題解決を図るといった基本的な能力を身につけるような授業実践に係る授業参観及び講義を行った。
2) 個に応じた指導の充実	① 習熟度別指導の実施 ② 少人数指導の実施 ・基礎、基本の確実な習得を目指し、理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導を実施する体制作り ③ 学習支援員の配置(小学校3名、中学校2名) ④ 中学生英語・数学学習会の開催	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの理解度を把握するため、少人数指導やチームティーチングなどを取り入れながら、個々の理解や習熟度に合った学習指導を展開した。 ・中学生を対象としたサマー学習会(平成26年8月4日～8日まで5日間)、及びウインター学習会(平成27年1月6日～9日まで4日間)を開催し、外部講師5名及び学力向上支援員5名、英語指導助手1名による個別指導を行い、英語・数学の学力向上に努めた。

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
3) 学習定着状況の把握	① 学力検査・学習定着度状況調査 ・標準学力調査 小学校1～3年生 ・県学力調査 小学校5年生 中学校2年生 ・全国学力調査 小学校6年生 中学校3年生	A	・学力検査、学習定着度調査などの結果を分析し、課題整理や指導方法の見直しを行うことにより、調査結果を指導改善に生かすよう努めた。 ・学力向上対策検討会議を開催し、各学校の学力の実態とその改善に向けた取組について協議した。
4) 学ぶ意欲、態度及び課題解決能力の育成	① 授業と連動した家庭学習の推進 ② 学習の適切な評価を実施	A	・児童生徒に自学自習の習慣を身につけさせるため、授業と連動した家庭学習を行うよう意図的、計画的に課題を与えるとともに、学習の成果について適切な評価を与えるよう努めた。

3 特別支援教育の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 就学指導の推進	① 就学指導委員会の開催 ② 特別支援学級	B	・心身に障がいを持つ子どもの早期発見と的確な実態把握のため、関係機関が会合を持ち、適切な就学指導を行った。 ・5歳児健診と連携し、個々の児童の早期実態把握に努めた。
2) 支援・指導体制の充実	① 専門的な機関との連携 ② 特別支援教育コーディネーターの配置 ③ 特別支援員等の配置 ④ 特別支援教育研修会の実施	A	・障がいのある子どもとその保護者等に対し、相談や支援ができる体制の整備に努めた。 ・各学校に特別支援教育コーディネーターを配置して、校内の支援体制を整備するとともに、特別支援学校との連携により障がいに応じた支援を行った。
3) 交流及び共同学習の推進	① 通常学級と特別支援学級の連携 ② 小・中学校と特別支援学校との連携	A	・学校行事に向けた取組等で、通常学校と特別支援学級が連携し、児童生徒が共同的に学習を行った。 ・交流籍を活用し、特別支援学校と連携して交流学習を行った。

4 道徳教育の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 学校全体で取り組む道徳教育	① 道徳教育推進のための協力体制の整備	A	・学校が組織体として一体となって道徳教育を進めるために、道徳教育推進教師を位置付け、全教師が力を発揮できる体制を整えた。
2) 「道徳の時間」の充実	① 「道徳の時間」の充実	A	・副読本や「心のノート」を活用し、児童生徒の意欲や日常生活と結び付けた道徳教育を行った。
3) 家庭、地域社会との連携を深める道徳教育	① 家庭や地域の力を生かした道徳教育の実施 ・福祉施設訪問や地域ボランティア活動への参加	B	・道徳教育全体計画と年間指導計画を作成し、他教科や領域だけでなく、学校行事や地域行事等と関連させて道徳教育を行った。

5 健康教育の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 教育活動を通じた推進体制の確立	① 健康教育推進のための協力体制の整備	A	・各学校で保健主事を位置付け、学校保健計画を作成し、学校保健に関する組織活動の推進を図った。
2) 学校保健の充実	① 児童生徒、教職員の健診 ・児童生徒(内科、歯科、耳鼻科眼科、心臓、生活習慣病・貧血、寄生虫卵、脊柱側弯) ・教職員(定期健診、胃・大腸検診) ・プール細菌検査 ② 学校医、学校歯科医、学校薬剤師の委嘱	A	・日常の健康観察を重視し、学校医等との連携を図りながら、各種検診の実施と事後指導を行い、児童生徒の健康管理に努めた。 ・インフルエンザなどの感染発生時には、感染拡大を最小限にとどめるよう対策を講じた。 ・教職員に対する各種検診も行き、自らの体調管理を喚起した。 ・来年度からの運動器検診実施に向け、研修会に参加した。
3) 学校安全の充実	① 学校遊具点検の実施 4~5月 ② AEDの維持管理 ③ 交通安全教室の実施	A	・学校管理下における各種事故を防止するため、学校施設の点検及び管理に努めた。 ・児童生徒の登下校時の事故防止に努めるとともに交通安全教室などを実施した。
4) 学校給食の充実	① バランスの取れた学校給食の提供 ② 地元食材の利用と郷土食の活用 ③ 放射性物質濃度の測定 ④ 軽米高校へ副食給食の提供 ⑤ 食物アレルギー対応給食の提供	A	・安全で栄養摂取基準量を満たした給食を提供するように努めた。 ・地域で生産される食材を活用した特色のある給食の提供に努めた。 ・安全な給食を提供するため、放射性物質測定器により週1回の検査を実施した。 ・軽米高校支援のため、昨年度に引続き副食給食の提供を行った。 ・食物アレルギーを有する児童生徒に対し、原因となる食物の除去、代替食の提供を行った。
5) 食育の推進	① 学校訪問(食育・栄養学習) ・生産者を招いての給食交流会(とり肉の日給食会等 4回) ・栄養指導 15回 ・児童対象の料理教室 1回 ② 食に関する広報誌を配布	A	・生産者との交流給食会などを行って、食育指導を展開し、生産者の苦労やバランスのとれた食事の大切さを伝える機会を設けた。 ・毎月1回広報誌を配布し、給食の情報、食事のマナー、伝統食、旬の食材を使ったレシピなどの情報の提供に努めた。
6) 体力向上の推進及び運動に親しむ態度の育成	① 各種競技会、記録会への参加 ② 体育祭・部活動等体育活動の推進 ③ 町内小学校駅伝大会開催(町小学校体育連盟主催)	A	・体育活動を通じて体力向上を図り、健康な体作りを推進した。 ・体育祭、部活動等を通じ運動に取り組む姿勢態度の育成を促すとともに、各種競技会で成果を発揮できるように支援した。

6 環境教育の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 身近な自然や環境問題を題材とした学習の推進	① 地域資源を生かした体験的な学習の推進	B	・地域の身近な自然や環境問題を題材とした、観察や見学など体験的な学習により、実践的な環境学習を行った。
2) 家庭・地域との連携の推進	① 地域社会における環境への取り組みとの連携 ・リサイクル活動の推進	B	・地域で取り組んでいる環境運動との連携やリサイクル運動などに取り組むことにより、環境問題への意識が醸成された。

7 キャリア教育の推進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 教育活動を通じた推進体制の確立	① キャリア教育推進のための協力体制の整備	A	・校務分掌にキャリア教育担当を位置付け、児童生徒の発達段階に応じて「総合生活力」と「人生設計力」の育成に努めた。
2) 勤労観・職業観の育成	① 進路指導・勤労教育の充実 ② キャリアスタートウイーク事業の実施	A	・将来実社会で「生きる力」を育てる学習を進めるとともに個々の生徒に応じたきめ細かい進路指導を行った。 ・中学生が町内事業所で職場体験学習を行うことにより、実社会での勤労観、職業観の醸成に資することができた。
3) 学校・家庭・地域・産業界との連携の推進	① キャリア教育推進協議会の開催	A	・地域の事業所や関係機関をメンバーとしたキャリア教育推進協議会を開催し、生徒の受入先職場の確保など、キャリア教育を支える体制整備が図られた。

8 国際理解教育の推進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 教育活動を通じた推進体制の確立	① 小学校外国語活動授業改善研修会の開催 ② 中学校英語検定料の助成 ③ 児童生徒英語発表会開催	A	・学習指導要領に沿い、小学校において外国語活動の授業を行い国際理解教育の推進を図った。 ・中学生の英語力向上のため英語検定に係る検定料の助成を行い、英語のスキルアップを図った。 ・小学校、中学校、高等学校の児童生徒が一堂に会し、英語発表会を開催した。
2) 外国語指導助手の活用	① 小学校 英語指導助手 1人 ② 中学校 英語指導助手 1人 (ALT)	A	・外国人を含む外国語指導助手が学校を訪問し、英語指導を行うことにより、児童生徒の英語力向上と国際的感覚の醸成が図られた。
3) 海外派遣研修の充実	① 中高生海外派遣事業の実施 平成27/1/5～1/12(8日間) 訪問先 アメリカ合衆国 ポートランド 中学生5名・高校2名・随行2名派遣	A	・外国青少年との交流やホームステイ等を通して、外国の文化等に直接触れることにより、語学力の向上と国際感覚を身に付けた個性豊かな人材を育成することを目的として、中高生の海外派遣事業を一戸町と合同で実施した。

9 情報教育の推進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 教育活動を通じた情報活用能力の育成	① コンピューター教室を活用 ・小学校 タブレット 62台 ② 教員対象のICT機器活用研修会を開催	A	・各学校に設置されたコンピュターールームを活用し、情報及びコミュニケーション機器の操作や情報処理能力の学習指導を展開した。 ・ICT機器を使い児童生徒に分りやすい授業を実施するため、教員研修を実施した。
2) 情報モラルに関する教育の充実	① 生徒指導の実施 ② 外部講師の活用 ・生徒指導(情報モラル)研修会 ③ 学齢に応じた情報教育の推進	A	・携帯電話やネットに潜む危険性などを機会を捉えて、児童生徒に指導した。 ・県総合教育センターの移動研修講座を活用して、情報モラル研修会を開催した。 ・インターネット等を活用した情報収集など、それぞれの発達段階に応じた情報教育を行った。 ・教師が情報機器を効果的に活用するための研修を進めていく必要がある。

10 適応指導の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 生徒指導体制の一層の充実	① 生徒指導体制の確立	A	・校務分掌に生徒指導主事を位置付け、生徒指導委員会等を開催し、不登校や問題行動に組織的に対応したり未然に防いだりする取組を推進した。 ・問題行動やいじめ、不登校に係る研修会を開催し、生徒指導担当教員の資質向上に努めた。
2) 教育相談体制の確立	① 教育相談員 ・相談活動の実施(毎月1回) ② スクールカウンセラーの配置 ③ スクールソーシャルワーカーの配置	A	・教育相談員を置き、児童生徒や保護者の教育に関する悩みについて、相談活動を実施した。 ・スクールカウンセラー配置事業を活用し、児童生徒や保護者、教師に対する助言を実施した。 ・スクールソーシャルワーカーが各校を訪問し、支援が必要な児童生徒や家庭に対して適切に対応した。
3) いじめ不登校問題行動への対応	① 問題行動の未然防止 ② いじめや学校不適應など早期発見と適切な指導 ③ 健康福祉課、児童相談所との連携(情報共有)	A	・問題行動、学校不適應などは、今後とも関係機関等と連携を図りながら未然防止に取り組む。 ・いじめ、学校不適應などへの早期発見、早期対応により、解決が図られている。
4) 関係機関との連携	① 学校警察連絡協議会の開催(年4回) ② 生徒指導連絡協議会の開催(年4回) ③ 軽米まつり巡回指導(3日間)	A	・生徒指導に関する協議会が開催され、警察と学校関係者の意思統一が図られた。 ・各学校の指導体制についての情報交換により、連携強化が図られた。 ・PTAとも連携し、軽米まつりの巡回指導を行った。

11 教員研修の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 教職経験者研修	① 授業力向上研修 ② 5年研修、10年研修	A	・総合教育センターや教育事務所と連携を図りながら、教員の指導力向上に向けた各種研修を実施した。
2) 研修内容の充実	① 授業改善研修会の実施 ② 学力向上先進校視察研修の実施	A	・各学校の校内研修を充実させるため、主に主任層への研修に力点を置くことによって、学校組織全体の資質向上が図られた。 ・異校種の教員が同じ授業改善研修会に参加することを通して、それぞれの校種で行われている学習について共通理解を図ることができた。 ・先進的な授業や、学校組織体制作りについての理解を、深めることができた。

12 地域に開かれた学校づくりの推進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 目標達成型の学校経営の推進	① いわて型コミュニティ・スクール構想に基づき、「まなびフェスト」(具体的に検証可能な目標)を設定	A	・すべての学校が「まなびフェスト」を設定し、目標達成に向け取り組んだ。
2) 教育活動の評価の推進	① 学校評議員等の設置 ・幼 3人、小 12人、中 4人	A	・教育活動についての自己評価と外部評価を取り入れ、教育活動の改善が図られた。
3) 特色ある教育活動への支援	① 総合的な学習の時間の充実 ② 「いわての復興教育」の充実	A	・地域ゆかりの文化、人材等を活用した学習活動によって、各学校で特色のある教育活動が展開された。 ・東日本大震災被災地域との交流や調べる学習を通して、郷土を愛し、復興・発展を支える人材の育成が図られた。
4) 学校裁量の拡大への対応	① 事務の共同実施	A	・学校長のリーダーシップや教員の企画力の一層の発揮を促すための取り組み、事務処理体制の整備を行った。

13 中高一貫教育の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 系統的・継続的指導の充実	① 連携型中高一貫教育の実施	B	・中学校と高校が連携して指導体制を整備し、教科指導や部活動指導等を行った。中学校の統合による、新しい連携のあり方も検討していく必要がある。
2) 地域との連携	① 中高一貫教育地域支援者会議等の開催 ② 中高一貫だよりの配布 (年4回:学期ごとに発行)	A	・中高一貫教育地域支援者拡大会議を開催するとともに、中高一貫だよりを発行し、地域の理解と協力を求めた。 ・生徒数が減少しており、軽米高校入学志願者を増やすためには、今後ますます地域との連携が重要となってくる。
3) 交流活動の充実	① 中高の交流事業の推進	B	・中高の生徒や教師の交流で高校へのスムーズな進学準備が図られた。 ・軽米高校の教育内容理解促進の観点から、今後も多彩な交流事業の実施が望まれる。

14 学校統合の推進と施設・設備の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 軽米小学校の建設	① 建設事業に係る業務を委託 ・軽米小学校旧校舎等解体工事管理業務 ・軽米小学校屋外環境整備Ⅱ期工事設計監理業務 ・軽米小学校・軽米中学校太陽光蓄電併設LED照明工事設計業務 ② 建設事業に係る工事を発注 ・軽米小学校旧校舎等解体Ⅰ期工事 ・軽米小学校旧校舎等解体Ⅱ期工事 ・軽米小学校屋外環境整備Ⅱ期工事 ・軽米小学校屋外環境整備Ⅲ期工事 ・軽米小学校太陽光蓄電併設LED照明工事	A	・軽米小学校屋外教育環境の整備のため、各種業務を委託した。 また、軽米小学校建設事業に係る、5工事を追加発注した。
3) 教育環境の改善	① 学校施設の維持管理 ② 主な修繕及び工事 ・小軽米小学校太陽光発電設備工事 ・小軽米小学校屋内運動場アリーナ塗装工事 ・晴山小学校太陽光発電設備工事 ・軽米中学校太陽光発電設備工事 ・軽米中学校防球ネット工事 ③ 小中学校空気環境測定業務を委託	A	・児童生徒が健やかに学習できるよう、学校施設の状況を把握し、施設の維持管理及び整備を行った。 ・化学物質による健康被害を防ぐため、教室の空気環境測定を行った。

【分類】 魅力ある社会教育の推進

1 健やかな成長を育む家庭教育の支援

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 発達段階に応じた学習機会の提供	学びを通じた被災地のコミュニティ再生支援事業(国庫委託) ① 「家庭教育支援事業」 ・幼児期子育て講座 13講座、延べ490人 ・学童期講座 7講座、延べ478人 ・思春期講座 2講座、延べ157人 ・親子参加講座 7講座、延べ379人	A	・国庫委託事業を活用し、学習情報や学習機会の提供を図り、幼児から児童・生徒を持つ保護者に対して、家庭教育学級、講座を開設し、家庭教育の充実が図られた。
2) 相談体制の整備	① 保健・医療・福祉等、関係機関との連携協力	A	・乳児検診(1歳児健診・1歳6ヶ月健診)の機会を活用し、読み聞かせや子育て相談など、ふれあいセンターと連携した講座に取り組んでいる。
3) 子育て情報と交流の場の提供	① 家庭教育啓発資料の提供 ・家庭教育手帳等の配布	B	・各小中学校へ家庭教育情報の提供をし、乳幼児から中学生までの子どもを持つ親の実践していただきたい子育てやしつけのヒント集として活用されている。

2 青少年の心を育む学習活動の支援

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 地域ぐるみの活動の支援	① 子ども会育成会連絡協議会活動支援 ・子ども会ソフトボール大会 3チーム ・子ども会卓球大会 22チーム ② 子ども会世話人研修会 46人	B	・町内子ども会相互の親睦と貴重な交流をとおして、多くのふれあいを深めることができ、青少年の健全育成が図られた。 ・単位子ども会ではチーム編成が困難となっている。学区内での連携強化が必要と思われる。 ・学校統合後、単位子ども会や教育振興運動組織について検討しなければならない。 ・子ども会の育成者を対象に子どもの自主性を促す親の活動への関わり方を学ぶことが出来た。
2) 体験的な活動機会の充実	① 子ども会リーダー研修会 (県北青少年の家) 仲間づくり、野外活動 35人 ② 子ども会リーダー音更町視察研修 (受入)22人 (派遣)18人 ③ いわて希望塾 (岩手山青少年交流の家) 中学生2人派遣	A	・自然体験学習の場を広げるにより協調性を養い、心豊かでたくましい子ども会のリーダーの育成が図られた。 ・姉妹町音更町との相互訪問交流を通じて、地域の理解を深めるとともに、いろいろな体験を積み重ねることができた。自分を取り巻く家族や友達、学校、地域との関わり大切さを知り、郷土に対する認識を深めることができた。 ・他市町村との青少年交流や復興の加速化にちなんだ意見発表からの学びを通じて、自らの地域を見つめ直し積極的に岩手の地域づくりを担おうとする人材育成が図られた。

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
3) 青少年団体活動の支援	① 成人式 夏季開催 参加者99人(80.5%) 中学生ボランティア11人 ② 青少年健全育成町民会議支援 第16回福祉体験バス 22人参加 軽米町青少年のつどい (サッカー実技指導会 62人参加)	A	・新成人を祝福するとともに、その意義と責任を自覚させ、積極的に地域社会に貢献する意欲づけが図られた。また、中学生ボランティアによる式典運営も効果的であった。 ・町民会議支援により、青少年健全育成が図られた。また、団体と学校との連携事業が図られた。

3 生涯にわたる学習活動の支援

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 地域づくり活動の促進	① 自治公民館長研修会 50人参加 ② 夢灯り事業 19公民館 45人参加 ③ 共食事業 12地区 延べ53回 1,523人参加 ④ 自治公民館連絡協議会活動支援	A	・久慈市下館佳光氏に講演を依頼し、自治公民館における地域コミュニティづくりの手法について学習することができた。 ・夢灯り事業を実施し、災害復興と地域づくり・絆の大切さを伝えることができた。 ・共食事業については、自治公民館や各行政区の創意工夫によるプログラムの展開がなされ、高齢者の積極的な参加により、活動に広がりが見られる。
2) 学習機会の提供	① 町民講座の開設(町民講師の活用) ・書道、菊植え、盆栽、ダンス、俳句、絵画など14教室を開催 延べ995人参加	A	・町民講座として各種の教室を開催し、学習機会の提供に努めたほか、一部は町民文化祭への出展を行うなど、芸術文化の振興にも寄与できた。 ・町民講座等からサークル活動へつなげ、文化協会への加盟に向けた取り組みが必要。
3) 高齢者の学習活動支援	① 高齢者教室「第42期寿大学」 ・運営委員会 2回 20人 ・講座開設10回(講演、ニュースポーツ、交通安全、視察、演劇鑑賞等) 延べ622人出席	A	・高齢者の生きがいを感じ、健やかで豊かな生活を送るための学習機会を提供ができた。 ・運営委員の意見や要望を講座に反映できた。 ・社会参加活動につながる講座の開設が今後必要。
4) 社会参加の支援	① 住民参加型活動への支援 ・住民のための生涯学習フェスティバル実行委員会支援 ・かるまい朗読会実行委員会支援 ・各種ボランティア活動支援	A	・住民参加型活動については、一部定着した活動となっている。
5) 男女共同参画社会の推進	① 男女共同参画啓蒙普及活動	A	・男女共同参画の情報発信により普及活動ができた。

4 社会教育の推進と施設の整備

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 社会教育主事の養成と専任職員の配置	① 専任社会教育主事の配置及び養成	A	・社会教育主事の配置が固定化されつつあり、継続的な養成が必要である。
2) 社会教育関係職員研修の充実	① 二戸地区、県などの各種研修会へ、職員とともに社会教育委員等を派遣	A	・職員、委員等の資質向上に努めた。

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
3) 社会教育施設の整備充実	① 中央公民館施設整備 ・2階童謡室フロアカーペット交換	A	・中央公民館での学習環境向上を図った。
4) 図書資料の収集・保存	① 受入図書冊数 ・購入1,121冊、寄贈等485冊、計1,806冊 ② 新聞、雑誌、官公庁出版物、郷土資料、視聴覚資料等の収集、保存	A	・住民の多様な学習ニーズに応えるため、利用者のリクエストや蔵書構成に留意しながら、蔵書の整備、充実に努めた。
5) 図書貸出、移動図書館車	① 閲覧、貸出、複写サービス(本館) ・登録数 個人1,368人、団体16団体 ・貸出数 個人5,929人、団体130団体 ・貸出冊数 個人25,487冊、団体1,185冊 ② 移動図書館車の巡回(21箇所) ・登録数 団体43団体、個人41人 ・貸出数 団体340団体、個人145人 ・貸出冊数 団体8,617冊 個人510冊	A	・図書館情報システムの導入により、町立図書館、移動図書館の利用が共有化され、どこでも貸出返却が可能になった。さらに、インターネットによる蔵書検索や貸し出し予約が可能になり利便性が図られた。 ・遠隔地の学校や福祉施設等への巡回により、図書利用の利便性が図られた。
6) 読書普及活動事業	① 図書資料の展示 テーマ図書展12回、企画展2回 ② 読書に関する作品コンクール ・応募650点、入賞56点 ③ 読書のつどい 2月28日、116人 ④ おはなしの会「図書館ひろば」 年10回、参加者数 延べ190人 ⑤ 第7回樹原ゆり朗読会 11月14日 中央公民館 135人 学校等巡回朗読会 11月12～14日 小軽米保育園他7か所 717人 ⑥ 第3期子ども司書講座(5日間9講座3人修了) ⑦ ブックスタート 7か月乳児検診時 年11回 41組 ⑧ 本の修理活動 毎週水曜日 ⑨ 幼児絵本感想画展(出店数99点、来場者延べ275人 ⑩ 学校図書館支援ボランティアの育成	A	・図書館資料を活用した企画展示や講座などを実施し、図書館の利用促進を図るとともに、お話し会や朗読会、ブックスタートなど読書普及事業を開催し、読書普及の推進が図られた。また、読書感想文・感想画コンクールでは新たな取組みとして、中学校の部を書評の募集とし、「読書に関する作品コンクール」と名称を変更して実施した。 ・小中学校の読書環境の充実と読書推進を図るため、ボランティアと協力しながら、学校図書環境整備等の支援活動ができた。 ・乳児と保護者に本との出会い親しむ機会を提供し、図書館利用を促進できた。 ・学校図書館支援事業地域コーディネーターによる事業推進とボランティアの育成が図られた。
7) 図書館情報システムの運用	① 図書館図書データの入力 1,806冊 ② 郷土資料データの入力 86冊 ③ 学校図書データの入力 1,131冊	A	・図書館情報システムの運用と学校図書館情報システム整備事業を業務委託し、図書館情報システムの導入により図書の登録、貸出返却の業務等が円滑に行われた。

【分類】 生涯スポーツの振興

1 スポーツ施設の整備・充実と活用促進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 生涯スポーツ施設の計画的整備	① ハートフル球場の大規模改修 ② 施設備品の充実(ブローバキューム)	A	・スポーツ振興くじ助成金を活用して、故障していたスコアボードや内外野の不陸を改修した。 ・施設備品の整備を行い、施設環境美化に努めた。
2) 学校体育施設開放事業の充実	① 町内4小中学校(軽米中、小軽米小、晴山小、軽米小)の体育施設を開放	A	・地域のスポーツ活動の拠点として、地域住民のスポーツ推進の利便性が図られた。

2 スポーツ活動の活性化

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 町民のスポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実	① 軽米町総合体育大会(7競技) <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲートボール ・ パークゴルフ ・ 軟式野球 ・ グラウンドゴルフ ・ 町民体育祭 ・ バレーボール ・ 卓球 ② 第16回「森と水とチューリップ」パークゴルフ大会(184人参加) ③ チャレンジデー2014開催 対戦相手: 埼玉県小鹿野町 軽米町: 参加率51.3% ④ 少年少女スキー教室 2日間開催 ⑤ 町民スキー教室 2日間開催	B	<ul style="list-style-type: none"> ・町総合体育大会は町民総参加による生涯スポーツの振興を図り、町民の健康、体力づくりに寄与した。これまで以上に多数の町民の方々が、気軽に参加できるようにするため、代表者会議、各競技の監督会議等で幅広く意見を聞き、競技内容等の見直しや規則等を緩和したり、参加しやすい環境づくりを図っている。 ・パークゴルフ大会をとおして健康、体力づくりに寄与できた。また、パークゴルフの普及と愛好者の幅広い交流が図られた。 ・9回目のチャレンジデーへの参加により、町民の意識も高まってきたが、個人参加と報告方法が課題である。 ・各競技団体の自主的な大会の企画、運営が成功しており、健康づくりの啓蒙が図られた。 ・スキーの楽しさを学びながら、健康・体力づくりが図られた。
2) スポーツ・レクリエーション指導者の養成・確保	① 二戸地区スポーツ交流会 ② 生涯スポーツ指導者講習会	A	<ul style="list-style-type: none"> ・県や二戸地区で開催する指導者講習会に派遣し、指導者養成に努めた。
3) スポーツ団体の育成・支援	① 町体育協会の活動支援 ② 町スポーツ少年団の活動支援	A	<ul style="list-style-type: none"> ・軽米町体育協会及びスポーツ少年団の充実した活動の推進と競技力の向上が図られた。
4) 競技スポーツの振興	① 「夢」づくりスポーツ親善大使「少年野球教室」年2回開催 ② 各種スポーツ大会の開催 ・軽米町体育協会主催大会の支援	A	<ul style="list-style-type: none"> ・倉持明氏、西村徳文氏による少年野球教室、小中学生への専門的な技術指導により、努力することの大切さ、夢を持つことの素晴らしさを伝えることができた。また、レベルの高いスポーツ振興と指導者を養成することができた。 ・各競技団体主催大会が年間数多く開催され、連携・協力し、競技力の向上に努めた。今後も連携、支援に努めたい。
5) 生涯スポーツ推進体制の整備・充実	① スポーツ推進委員の委嘱20人 ・スポーツの実技指導及び助言 ② 健康体力づくり関係機関との連携	A	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員協議会との連携、協力が図られ、事業の円滑な推進が図られた。 ・健康福祉課との連携により、効率的な事業運営が図られた。

3 「希望郷いわて国体」の開催に向けた準備

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 「希望郷いわて国体」の競技開催に向けた準備	① 6月5日:希望郷いわて国体軽米町実行委員会設立総会・第1回総会の開催 ② 開催に向けた啓発活動の実施(懸垂幕、横断幕、のぼり等の作成・掲示、PR用ポケットティッシュの作成・配布、花いっぱい運動の実施) ③ 第71回国民体育大会「軟式野球競技」連絡協議会との連携	A	<ul style="list-style-type: none"> ・国体開催に向け実行委員会を設立した。 ・「希望郷いわて国体」の開催へ向けた啓発活動を行うことで機運醸成を図った。 ・他市町村との競技運営に係る連携強化を図ることができた。

【分類】 多様で個性ある文化の創造

1 芸術文化の振興

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 町民の芸術文化活動の推進	① 第35回軽米町民文化祭 ○さつき展 来場者 101人 ○開幕式典、文化協会ステージ発表会来場者 180人 ○一般・文化協会作品展示 205点 ○幼小中高書写絵画作品展 351点 来場者 700人 ② 青少年劇場 「ワヨウセイヨウ」 小学生213人参加	A	・町民の芸術文化活動の成果を発表・展示した。中でも幼小中高生からの作品も広く募集することで、一般町民に鑑賞の機会を与え、芸術文化の振興が図られた。 ・器楽に親しむステージを体験することができた。また、鑑賞会をきっかけに、芸術文化の素晴らしさを感じ、興味を一層深められた。
2) 芸術文化団体の育成	① 軽米町文化協会育成支援 ・町民文化祭の共催事業 ・芸術文化視察研修の実施(県北沿岸市町村、秋田県仙北市民会館ほか) ・加盟団体の支援	A	・文化協会加盟団体の学習活動を広く一般町民にも周知し、芸術文化に親しむ機会を提供することにより、各団体の活性化が図られた。 ・文化協会との連携により、町民文化祭や視察研修を開催し、優れた芸術文化を鑑賞する機会となった。

2 文化遺産の保存と伝承

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 文化財の調査と指定の促進	① 町道用地発掘調査事業 ・町道赤石峠小玉川線道路改良舗装工事に伴う発掘調査約350㎡ ・町道上平線道路改良舗装工事に伴う発掘調査100㎡ ② 町内遺跡発掘調査事業 ・千本松遺跡発掘調査約150㎡ ・再生可能エネルギー対応等試掘調査	A	・赤石沢遺跡・上平5遺跡の発掘調査により、埋蔵文化財の保護と開発計画の調整が図られた。 ・千本松遺跡の環状配石遺構を再確認することができた。 ・太陽光発電等開発計画の事前調査により、埋蔵文化財の保護と開発計画の調整が図られた。
2) 文化財の保存と活用	① 第42回軽米町郷土芸能まつり	A	・町郷土芸能保存会加盟団体の良い発表機会となった。 ・郷土芸能保存のための団体育成と援助が必要
3) 文化財愛護思想の啓発	① 軽米町史の販売 ② 文化財調査報告書等の発刊	B	・軽邑耕作鈔翻刻等の冊子販売は好調であった。

【分類】 教育振興運動の推進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 「五者の分担により、地域の教育課題を解決する」	① 教育振興運動推進委員会 ・常任委員会の開催 年2回開催 ・総会の開催 年1回開催 ・研修会の開催 年1回開催 ② 学校統合による実践区の見直しの検討 ・笹渡教育振興会への支援 ③ 教育振興運動集約集会 講演会 「共に学びあう教育」 講師 東成瀬村教育委員会 教育長 鶴飼 孝 氏 81人参加 ④ 「実践のあゆみ」発刊	A	・教育振興運動の基、子どもに関する全ての事業を行っているため、子どもと大人や地域との関係を統一した考え方で事業を進めることができた。 ・学校統合の伴う実践区の見直しについては、地域の実情に合わせて検討することができた。 ・笹渡教育振興会では、仮設住宅を訪問し、交流の中から被災地理解を深めることができた。 ・集約集会は、学力向上へ向けた具体策、行政方針と独自の経済支援などについて講演をいただいた。 ・町の教育振興運動の成果を集約し、各実践区との交流を深めながら、運動の意義と実践意欲を高めることが出来た。